

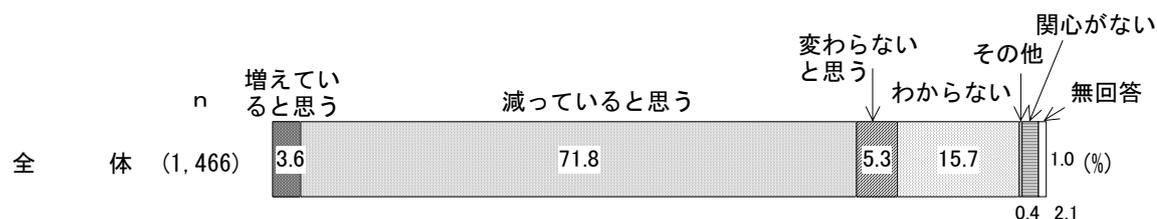
7 「生き物」とその環境を守る取り組みについて

(1) 動植物や生息する場所の増減

◇「減っていると思う」が7割を超える

問 32 かつては田んぼにカエルやメダカ、公園や林には昆虫など、いろいろな種類の動植物が身近に見られました。これらの動植物や生息する場所についてあなたはどのように感じていますか。(〇は1つ)

<図表7-1> 動植物や生息する場所の増減



動植物や生息する場所の増減について聞いたところ、「増えていると思う」(3.6%)が1割に満たず、「減っていると思う」(71.8%)が7割を超えている。(図表7-1)

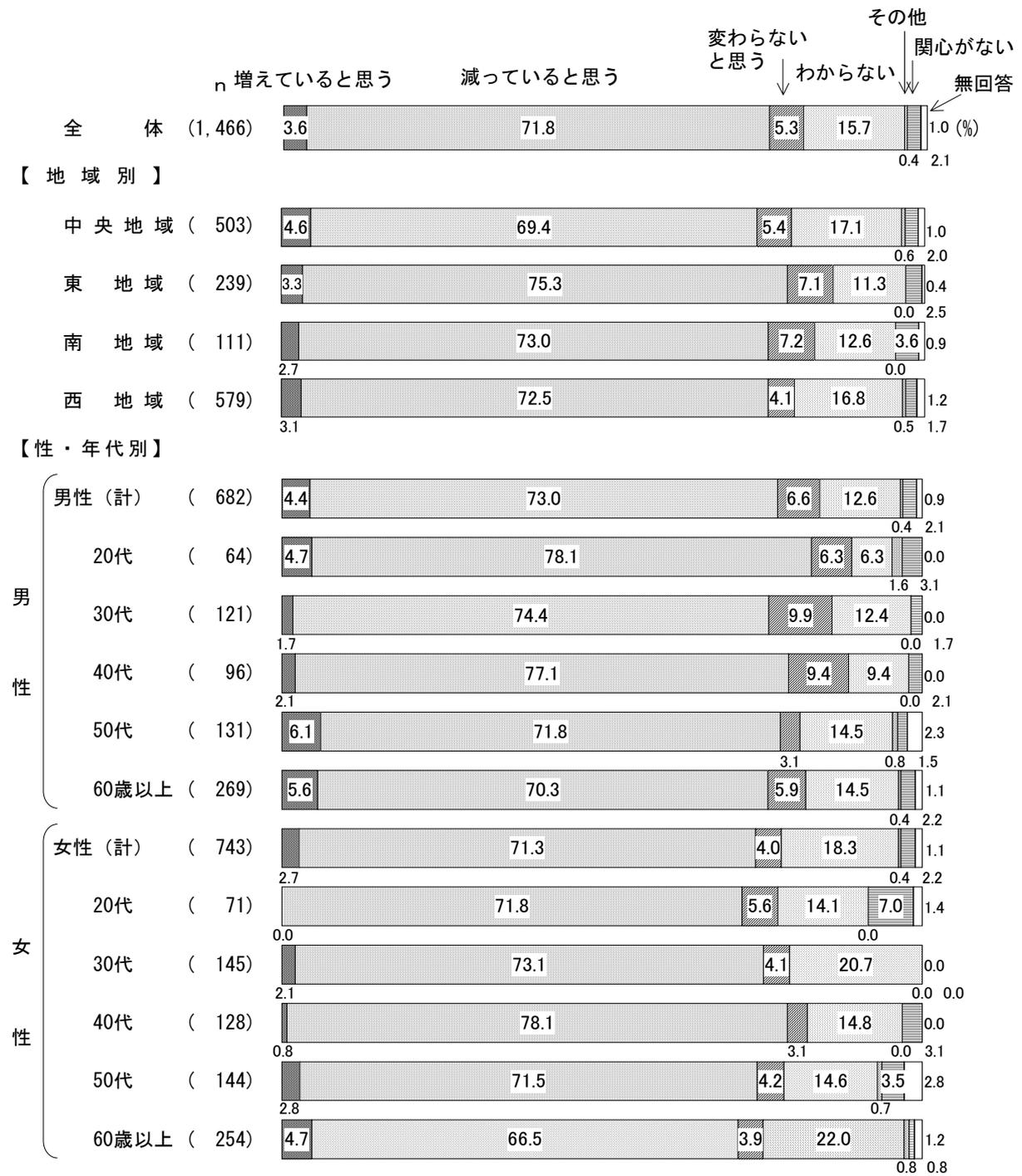
【地域別】

地域による差異はあまり見られないが“中央地域”以外では「減っていると思う」が7割を超えている。(図表7-2)

【性・年代別】

「変わらないと思う」が男性の30代(9.9%)と40代(9.4%)で約1割となっている。「減っていると思う」は女性の60歳以上を除き7割を超えている。(図表7-2)

<図表7-2> 動植物や生息する場所の増減／地域別、性・年代別

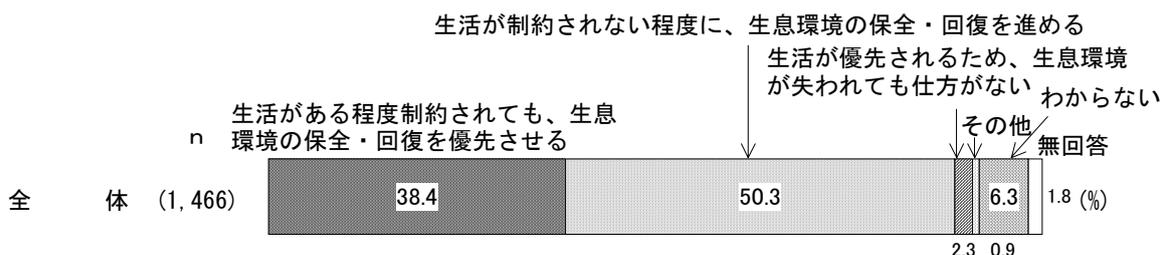


(2) 「生物多様性の保全」に対する考え

◇「生活が制約されない程度に、生息環境の保全・回復を進める」が5割

問 33 私たちの生活に起因して生き物が絶滅したり、絶滅の恐れにあり、現在、「生物多様性の保全」※という、地球上の様々な生き物やそれらが生息できる環境を守る取り組みが進められています。このことについてあなたはどのように考えますか。(○は1つ)

<図表7-3> 「生物多様性の保全」に対する考え



※「生物多様性の保全」とは

「生物の多様性」とは、地球上の生物が、バラエティに富んでいることをいい、多様性のもととなっている遺伝子の保護、絶滅の恐れにある種の保護、生態系の維持により、命の土台である「生物多様性」を守っていく取り組みを「生物多様性の保全」といいます。

私たちは、この生物多様性により自然環境を始め衣食住の全てを、資源として得ているほか、遊びの場、芸術・文化、心の潤いなどの豊かな生活を送ることが可能になっています。

しかしながら、産業の発展、人口の増加、都市の拡大など、人間生活は地球温暖化を始めとする自然環境の変化を引き起こし、生き物の絶滅の速度を早めています。このことが、生き物同士、互いに支えあって保たれる自然界のしくみを壊し、将来にわたる人間生活に重大な影響を与えると、地球温暖化防止とともに、国際的な問題になっています。

「生物多様性の保全」に対する考えについて聞いたところ、「生活が制約されない程度に、生息環境の保全・回復を進める」(50.3%)が5割、「生活がある程度制約されても、生息環境の保全・回復を優先させる」(38.4%)が約4割となっている。(図表7-3)

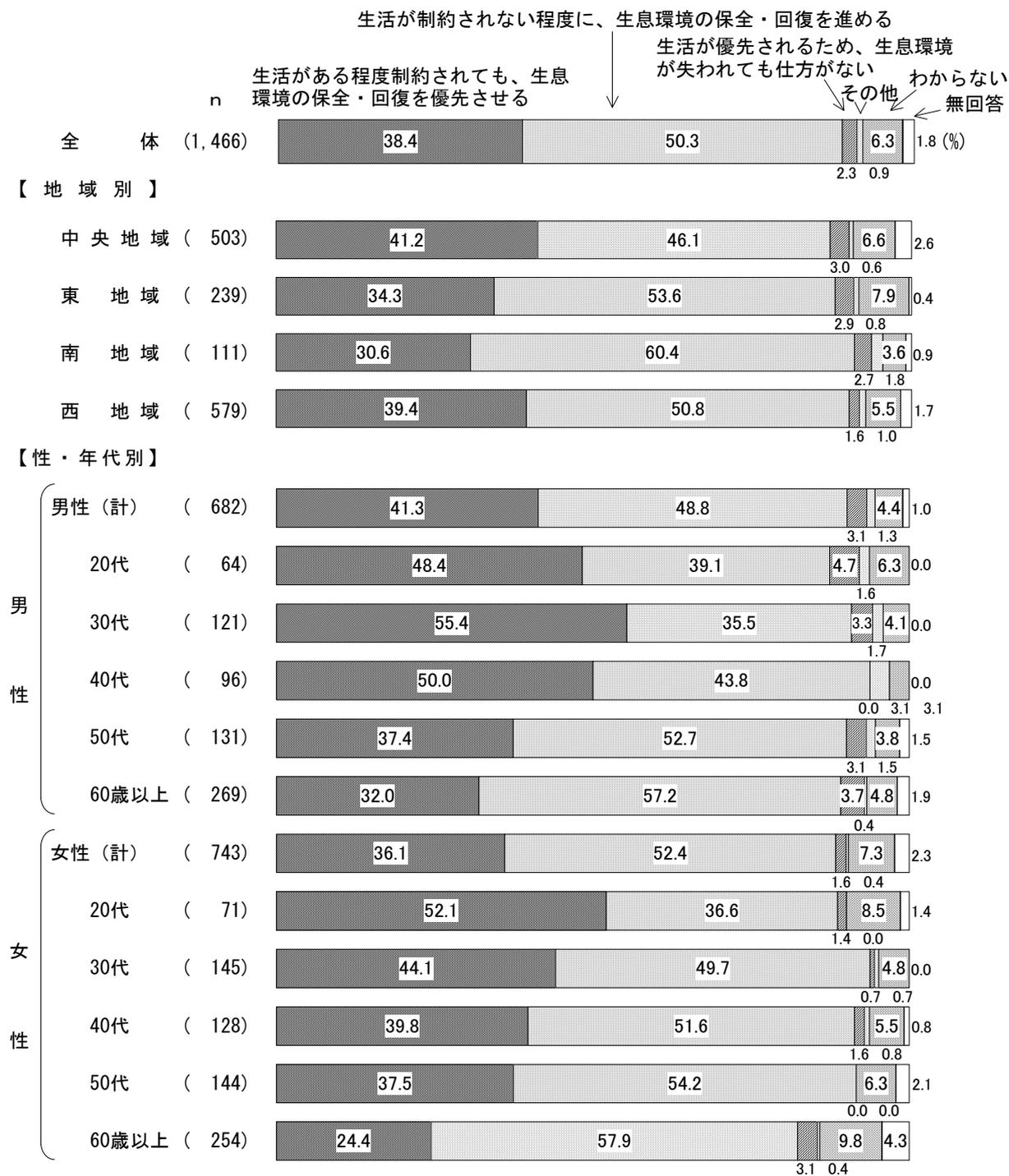
【地域別】

「生活が制約されない程度に、生息環境の保全・回復を進める」は“南地域”(60.4%)で6割となっており、“東地域”(53.6%)、“西地域”(50.8%)、“中央地域”(46.1%)となっている。「生活がある程度制約されても、生息環境の保全・回復を優先させる」は“中央地域”(41.2%)で4割を超え、“西地域”(39.4%)、“東地域”(34.3%)、“南地域”(30.6%)と続いている。(図表7-4)

【性・年代別】

「生活が制約されない程度に、生息環境の保全・回復を進める」は男性の50代以上、女性の40代以上で5割を超えている。「生活がある程度制約されても、生息環境の保全・回復を優先させる」は男性の30代(55.4%)、40代(50.0%)、女性の20代(52.1%)で5割を超えている。(図表7-4)

<図表7-4> 「生物多様性の保全」に対する考え／地域別、性・年代別



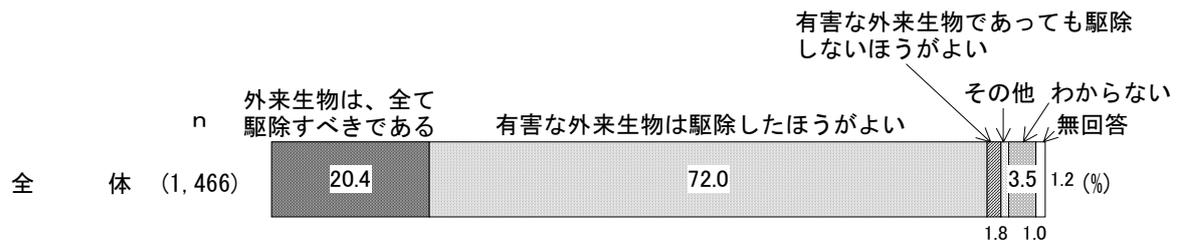
(3) 外来生物の駆除に対する考え

◇「有害な外来生物は駆除したほうがよい」が7割を超える

問 34 生き物を絶滅の危機に導く原因の一つに、人間が他の地域から持ち込んだ外来生物（がいらいせいぶつ）※の影響があり、法に基づき駆除等を行っています。

あなたは、これに対しどう思いますか。（○は1つ）

<図表 7-5> 外来生物の駆除に対する考え



※「外来生物」とは

ブラックバスやカミツキガメなど、もともとその地域にいなかったのに、他の地域から持ち込まれた生き物を言います。これら「外来生物」により、希少な野生の生き物が食べられたり、人への危害を与えるなど、地域の生態系や自然環境に影響を与えるという問題が世界各地で見られています。

外来生物の駆除に対する考えについて聞いたところ、「有害な外来生物は駆除したほうがよい」(72.0%)が7割を超えている。「外来生物は、全て駆除すべきである」(20.4%)が2割、「有害な外来生物であっても駆除しないほうがよい」は1.8%となっている。(図表 7-5)

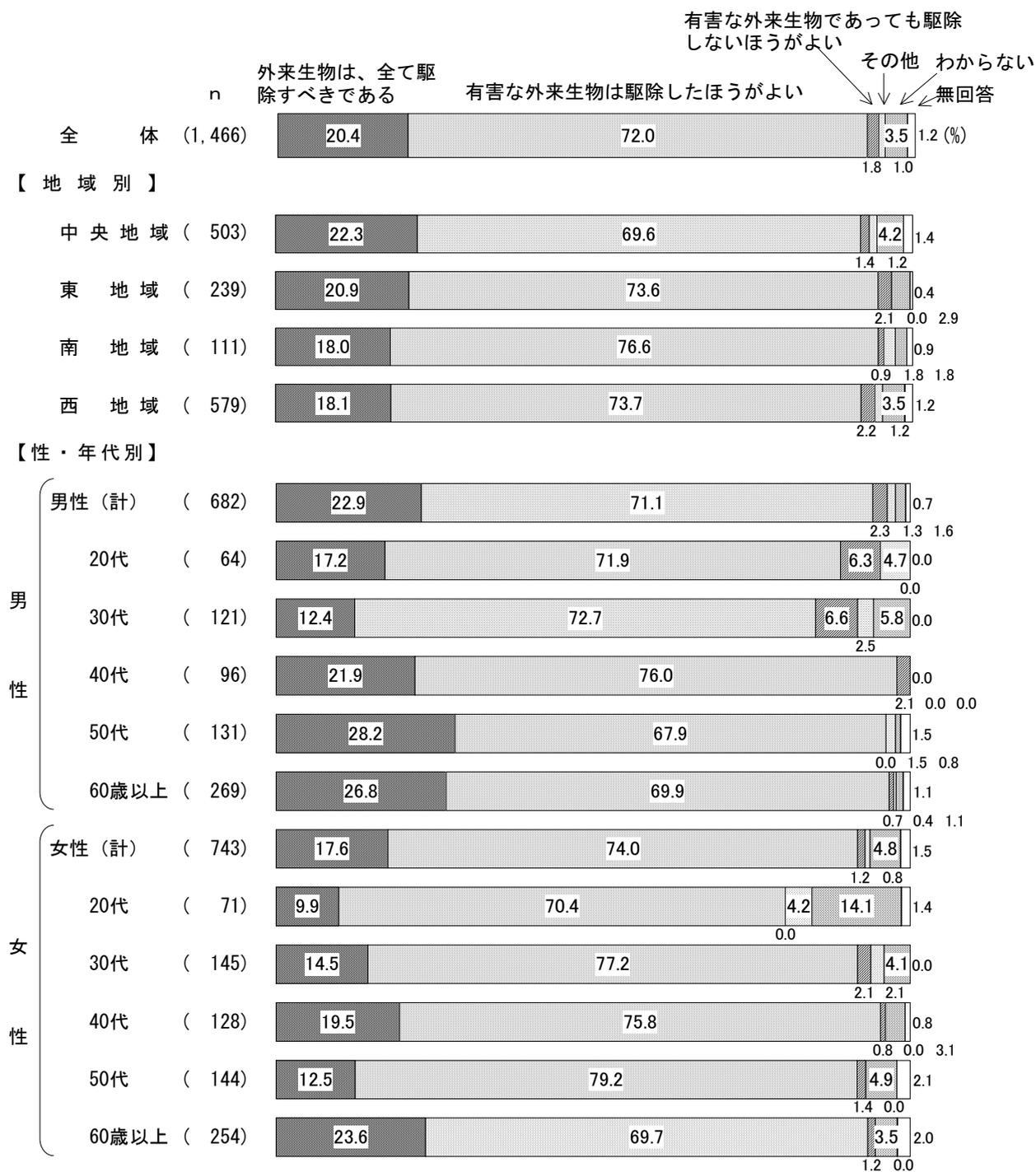
【地域別】

「有害な外来生物は駆除したほうがよい」は“南地域”(76.6%)、“西地域”(73.7%)、“東地域”(73.6%)、“中央地域”(69.6%)となっている。「外来生物は、全て駆除すべきである」は“中央地域”(22.3%)、“東地域”(20.9%)で2割を超え、“西地域”(18.1%)、“南地域”(18.0%)と続いている。(図表 7-6)

【性・年代別】

「有害な外来生物は駆除したほうがよい」は男性の50代以上を除き7割を超え、特に女性の50代(79.2%)は約8割となっている。「外来生物は、全て駆除すべきである」は男性の40代(21.9%)、50代(28.2%)、60歳以上(26.8%)、女性の60歳以上(23.6%)で2割を超え約3割の間となっている。(図表 7-6)

<図表 7-6> 外来生物の駆除に対する考え/地域別、性・年代別

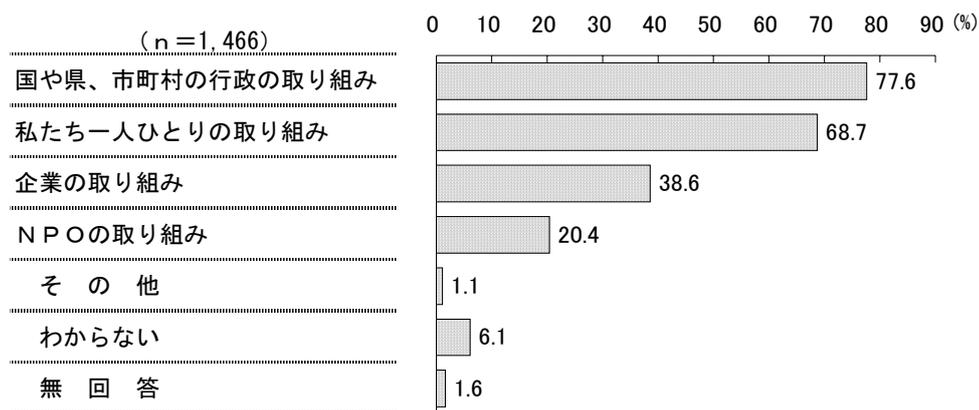


(4) 身近な生き物を守るために必要な取り組みの主体

◇国や県、市町村の行政の取り組み」が約8割

問 35 身近な生き物を守る取り組みについて、あなたは、次のどの取り組みが必要だと思えますか。(〇はいくつでも)

＜図表 7-7＞身近な生き物を守るために必要な取り組みの主体（複数回答）



身近な生き物を守る取り組みの主体について選んでもらったところ、「国や県、市町村の行政の取り組み」(77.6%)が約8割と高くなっており、これに「私たち一人ひとりの取り組み」(68.7%)が約7割、「企業の取り組み」(38.6%)が約4割で続いている。(図表7-7)

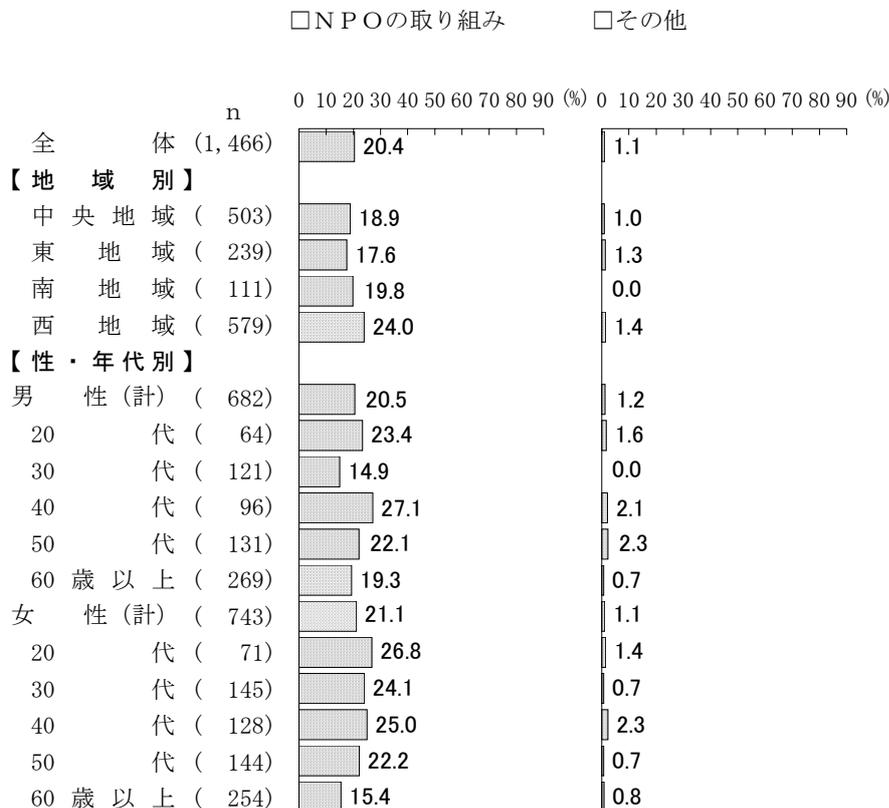
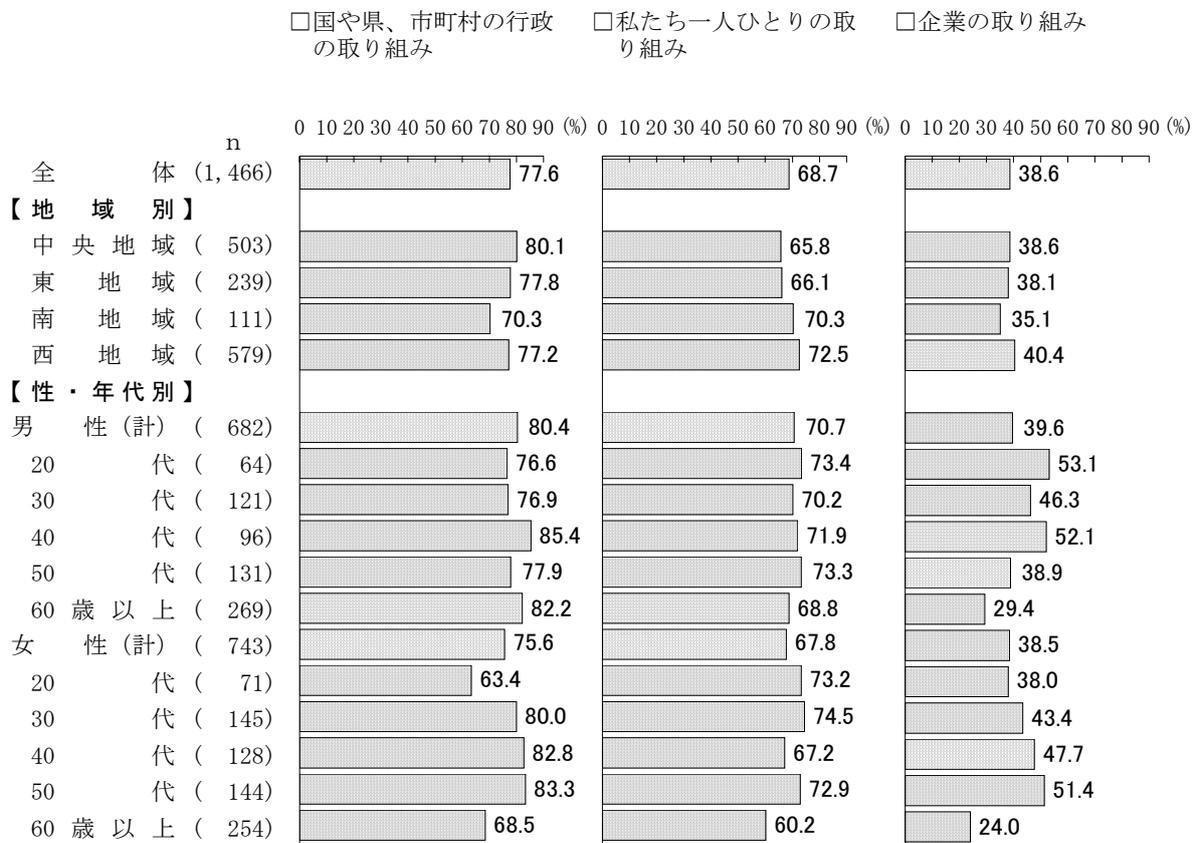
【地域別】

「国や県、市町村の行政の取り組み」は“中央地域”(80.1%)が8割と最も高く、“南地域”(70.3%)が7割で最も低い。「私たち一人ひとりの取り組み」は“西地域”(72.5%)が最も高く、“中央地域”(65.8%)が最も低くなっている。また、「NPOの取り組み」は“西地域”(24.0%)が最も高くなっている(図表7-8)

【性・年代別】

「国や県、市町村の行政の取り組み」は男性の40代(85.4%)が最も高く、女性の20代(63.4%)が最も低い。「私たち一人ひとりの取り組み」は女性の30代(74.5%)が最も高く、女性の60歳以上(60.2%)が最も低い。「企業の取り組み」は男性の20代(53.1%)と40代(52.1%)が高くなっている。(図表7-8)

<図表7-8>身近な生き物を守るために必要な取り組みの主体/地域別、性・年代別

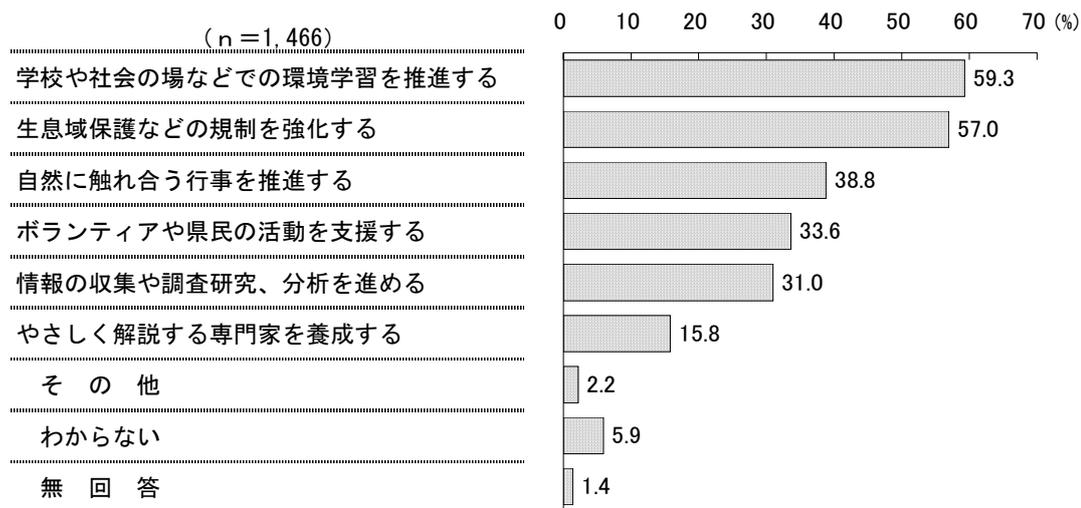


(5) 生き物を守るために県に期待する活動

◇「学校や社会の場などでの環境学習を推進する」と「生息域保護などの規制を強化する」が約6割

問 36 生き物を守る取り組みとして、あなたは、県にどのような活動を期待しますか。
(○はいくつでも)

<図表 7-9> 生き物を守るために県に期待する活動 (複数回答)



生き物を守るために県に期待する活動について選んでもらったところ、「学校や社会の場などでの環境学習を推進する」(59.3%)と「生息域保護などの規制を強化する」(57.0%)が約6割と高くなっており、これに「自然に触れ合う行事を推進する」(38.8%)が約4割で続いている。(図表 7-9)

【地域別】

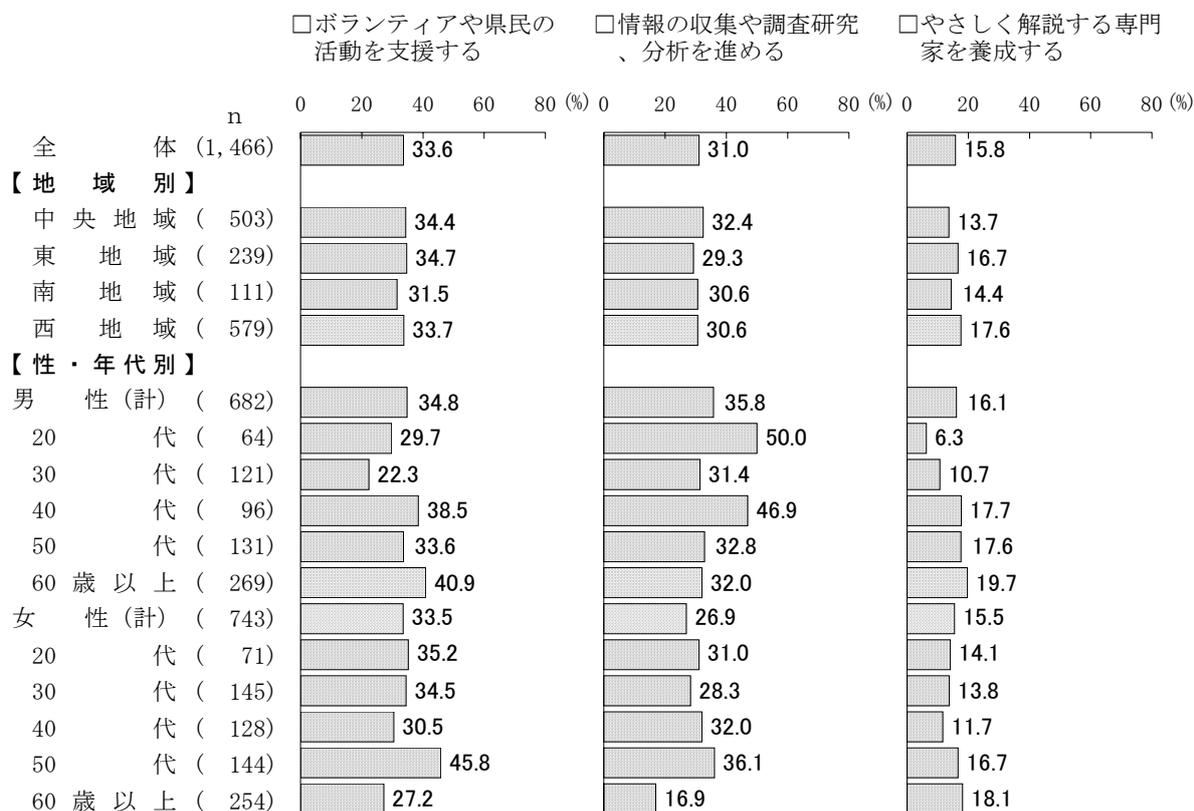
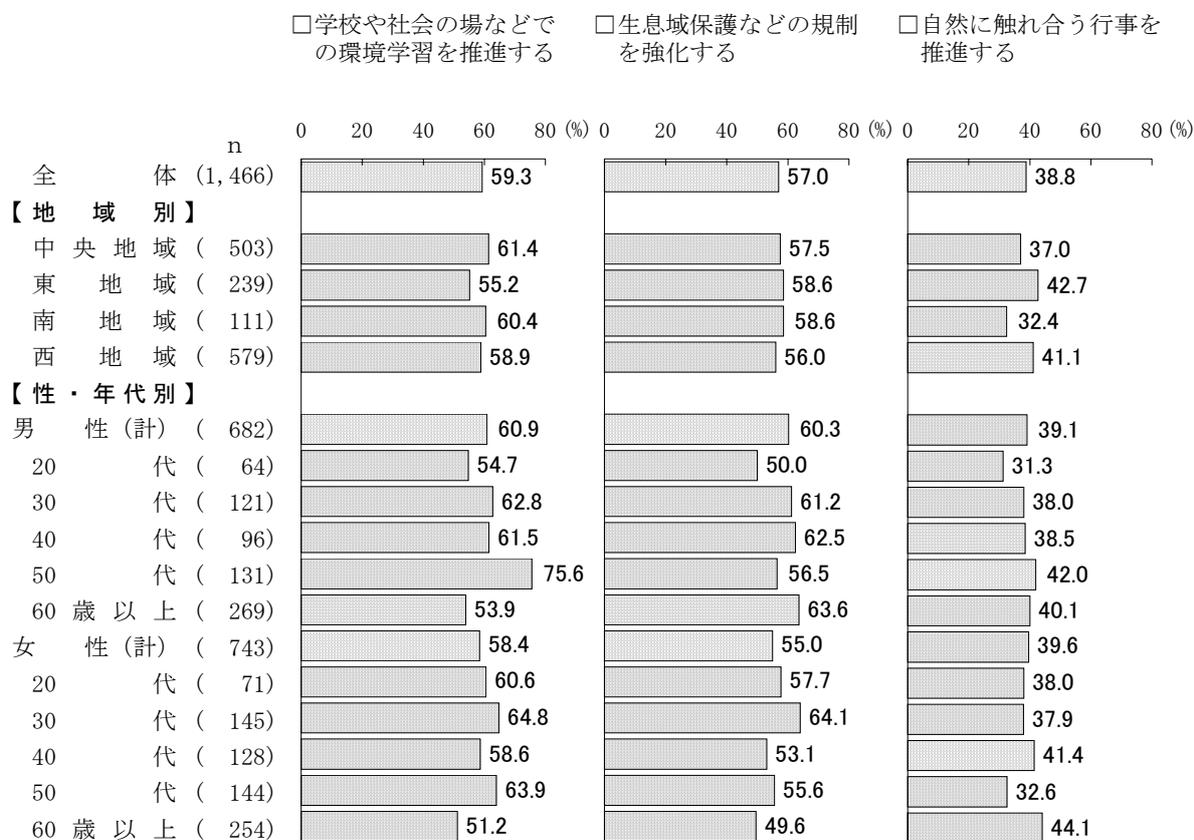
「学校や社会の場などでの環境学習を推進する」は、“中央地域”(61.4%)、“南地域”(60.4%)が6割を超えている。「生息域保護などの規制を強化する」はどの地域も大きな差異は見られない。

(図表 7-10)

【性・年代別】

「学校や社会の場などでの環境学習を推進する」は、男性の50代(75.6%)が7割台半ばで最も高く、女性の60歳以上(51.2%)が最も低くなっている。「生息域保護などの規制を強化する」は女性の30代(64.1%)と男性の60歳以上(63.6%)が6割台半ばで高く、女性の60歳以上(49.6%)が最も低い。「自然に触れ合う行事を推進する」では、女性の60歳以上(44.1%)が4割台半ばと高くなっている。また、「ボランティアや県民の活動を支援する」は女性の50代(45.8%)と男性の60歳以上(40.9%)が高く、「情報の収集や調査研究、分析を進める」で男性の20代(50.0%)と40代(46.9%)が高くなっている。(図表 7-10)

<図表7-10>生き物を守るために県に期待する活動／地域別、性・年代別



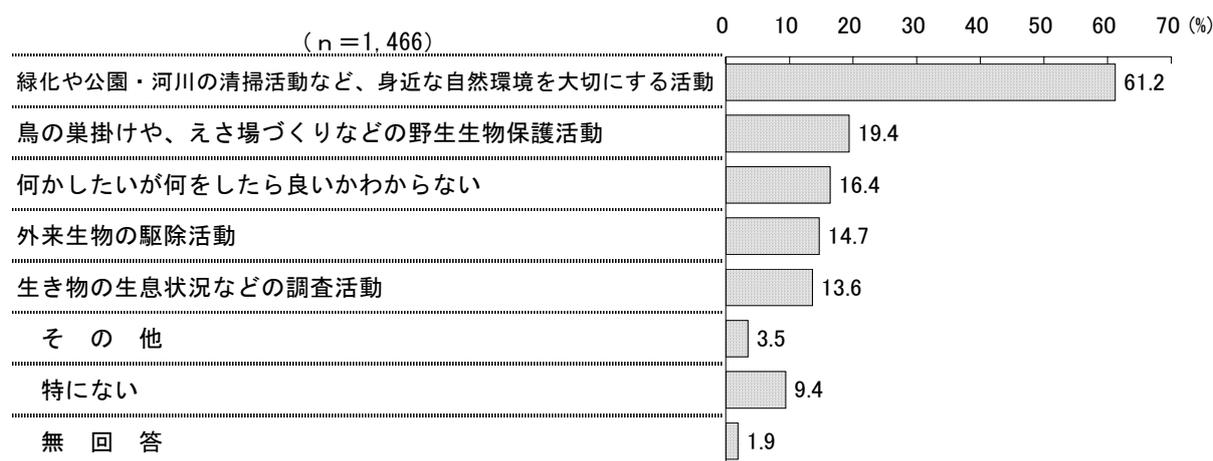
(6) 生き物を守るために自分ができると思う活動

◇「緑化や公園・河川の清掃活動など身近な自然環境を大切にす活動」が6割を超える

問 37 生き物を守る取り組みとして、あなたができると思う活動はどんなことですか。

(○はいくつでも)

<図表 7-11> 生き物を守るために自分ができると思う活動 (複数回答)



生き物を守るために自分ができると思う活動について選んでもらったところ、「緑化や公園・河川の清掃活動など、身近な自然環境を大切にす活動」(61.2%)が6割を超え高くなっており、これに「鳥の巣掛けや、えさ場づくりなどの野生生物保護活動」(19.4%)と「何かしたいが何をしたら良いかわからない」(16.4%)が続いている。(図表 7-11)

【地域別】

「緑化や公園・河川の清掃活動など、身近な自然環境を大切にす活動」は、「南地域」(64.0%)が最も高いが他の地域も6割以上となっている。「鳥の巣掛けや、えさ場づくりなどの野生生物保護活動」は、「東地域」(22.2%)が最も高く、「南地域」(14.4%)が最も低くなっている。(図表 7-12)

【性・年代別】

「緑化や公園・河川の清掃活動など、身近な自然環境を大切にす活動」は男性の30代(72.7%)が7割を超え最も高く、女性の60歳以上(52.4%)が最も低くなっている。「鳥の巣掛けや、えさ場づくりなどの野生生物保護活動」は男性の60歳以上(26.8%)が最も高く、男性の30代(11.6%)が最も低い。「何かしたいが何をしたら良いかわからない」は女性の40歳以上が2割台となっている。「外来生物の駆除活動」と「生き物の生息状況などの調査活動」は、いずれも女性より男性の比率が高く、男性の60歳以上が最も高くなっている(図表 7-12)

<図表7-12>生き物を守るために自分ができると思う活動／地域別、性・年代別

